

広報

こしがやは

6.1

平成3年
(1991年)

No. 874

越谷市民憲章

市の木:ケヤキ 市の花:キク 市の鳥:シラコバト

わたくしたちは、越谷市民であることに誇りと責任を持ち、水と緑と太陽に恵まれた豊かなまちを築くため、限りない願いをこめて、ここに市民憲章を定めます。

1. 教養を豊かにし、人間性あふれる文化のまちをつくります。
1. きまりを守り、信じあい、心豊かな明るいまちをつくります。
1. 自然を愛し、お互いに助けあい、きれいなまちをつくります。
1. 健康で楽しく働き、明るいスポーツのまちをつくります。

発行／越谷市 343 越谷市越ヶ谷4丁目2番1号 0489(64)2111 編集／企画部広報広聴課

あなたと市政を結ぶかけ橋 KOHO KOSHIGAYA

情報 かわら版

- 参議院埼玉県選出議員補欠選挙
- 市からのお知らせ、施設ガイド、
- 公民館コーナー、伝言板
- 子宮がん検診実施中

ごみを捨てるのは私たち、減らすこともできるのです。

- 越谷市建築景観賞を制定しました
- いつもきれいな歯でハッピースマイル

■ ハツボト 売って喜び、買つて喜ぶリサイクル市



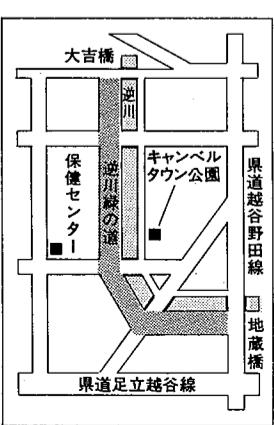
そこで脚光を浴びていているのが、リサイクル市。フリーマーケットとも言います。が、元は1970年代にアメリカで盛んになったガレージセール。引っ越しなどで不用になつた家具や台所用品をホームページに並べて売つたことが始まりです。

8面では、5月19日に開かれたリサイクル市の様子をご紹介します。

人口の増加に伴つて、増え続けるごみ。現在は人ごみとの戦いでもあります。昭和40年代に起きた「ごみ戦争」は、出されたごみをいかに処理するかということが問題でした。でも近年のごみ問題は、住民のごみの出し方を含めて、いかにごみを減らすかがテーマとなつています。



受付時間前に並ぶ出店者たち



します

* 次回は「登戸宮前通り」を紹介します

「小学1年生まで、地蔵橋の近くに住んでいました。よく家族での通りを散歩しました。通り沿いの屋敷林の緑がいつまでも残つてくれればと思い名付けました」

の通りです。

「以前は砂利道で歩きにくかつたですが、今では歩くのが楽しみになりました。通り沿いに整備されているキャンベルタウン公園の完成が待ち遠しいですね」

逆川に水が入つた今の季節、本

当にきれいな通りとなつてしま

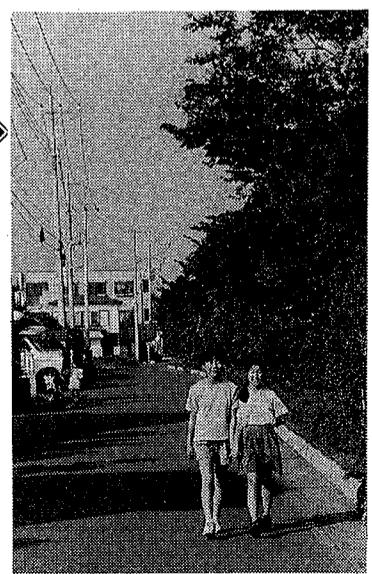
す。

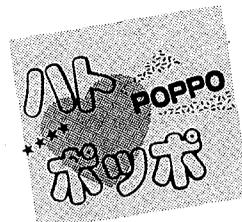
逆川緑の道



緑のとてもきれいな道
福井理恵さん（東越谷）

道30路線を皆さ
人に紹介してい
ただきます

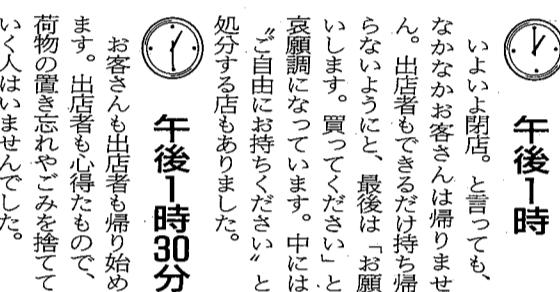




リサイクル市



わあ、これすてきじゃない



わあ、これすてきじゃない

リサイクル——この言葉を耳にすると、久しくなります。リサイクルと言つて思ひ出すのは、子ども会や自治会などで行つているアルミ缶や古紙の回収、と言う人も多いのではないしょうか。でも、リサイクルの方法もいろいろあります。リサイクル市もその一つ。家の中がすつきり、他人がにつくり、清掃工場までホツとする。正に一石三鳥の効果を持つています。

今号では、先月、千間台地区で行われたリサイクル市をご紹介します。

このリサイクル市は、千間台一店舗一坪くらいの割合で区画割りをしたりしていきます。事前に打ち合わせをしていても、特に今回は、チラシの回覧など地元自治会も協力をしてくれました。

このリサイクル運動市民の会、自治会の有志、ボランティアの皆さん、約20名が集合。早速、会場の設営に取りかかります。周辺に看板やのぼりを立てたり、初めての会場なのでとまどつてしまい、準備が終わつたころには、受付の前には出店者の列ができていました。

</

第2次越谷市総合振興計画後期基本計画特集

平成3年6月1日

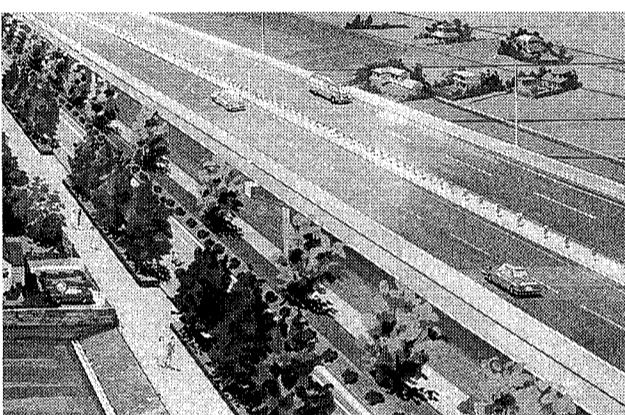
しげや臨時特集号

発行／越谷市 343 越谷市越ヶ谷4丁目2番1号 0489(64)2111 編集／企画部広報広聴課

21世紀を目指して 後期基本計画がスタート



▲平成9年度完成を目指して進む鉄道高架事業（イメージ図）



▲平成10年完成を目指して事業に着手した東埼玉道路（イメージ図）



▲今年の秋に開園予定の花田第六公園

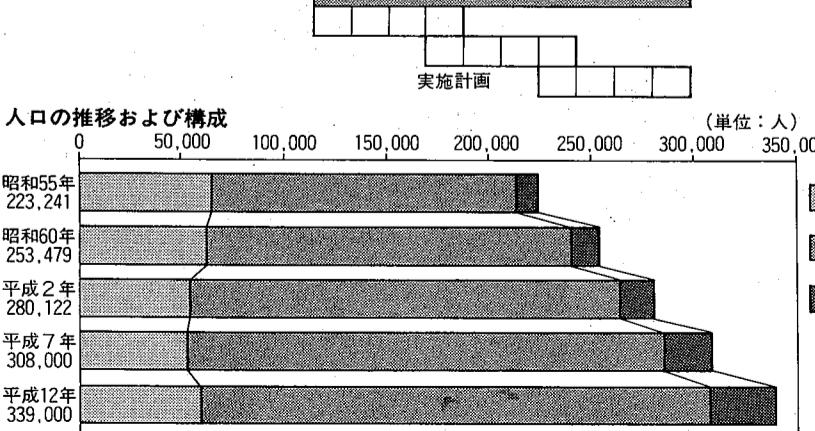
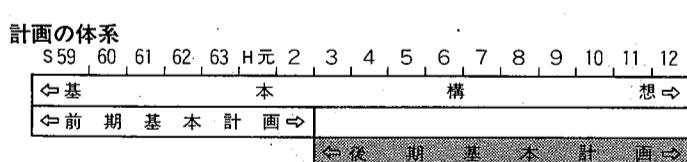


▲21世紀の主役は君たちだ（児童館コスモス）

安全性・利便性・快適性を備え、自然と調和した都市を築くためには、長期的展望に立った計画的なまちづくりが必要です。市では、昭和59年に「水と緑と太陽に恵まれたふれあいと活力ある文化都市」を将来都市像とした第2次総合振興計画を策定し、総合的かつ計画的な行政運営に努めています。その実現を目指す新たな計画として、21世紀へのかけ橋となる重要な時期の政策プランです。

今回の特集ではその主な内容などをお知らせします。

4月からスタートしました。



《基本構想》

基本構想で明らかにされた将来都市像の実現に向けて、その課題と施策を体系的にまとめたものです。

基本構想の計画期間を前期と後期に分け、前期7年間の計画は平成2年度で終了しました。

越谷市の歴史や自然などの地域特性を踏まえ、将来の越谷市のあるべき姿を明らかにし、その実現のために必要な都市づくりの基本の方針を示したもので

す。昭和59年度を初年度とし、平成12年度を目標年次とする17年間の長期にわたる計画で、本市のまちづくりの最も基本的な計画です。

《基本計画》

基本構想で明らかにされた将来都市像の実現に向けて、その課題と施策を体系的にまとめたものです。

基本構想の計画期間を前期と後期に分け、前期7年間の計画は平成2年度で終了しました。

後期基本計画の計画期間は、平成3年度を初年度とし、平成12年度（西暦2000年）まで10カ年であり、目標人口は33万人です。

解と協力を願うするもので

計画の構成と内容

後期基本計画は市民が奏てる

市民と行政のハーモニーです



▲出羽地区懇話会



▶大沢地区懇話会



▲大袋地区懇話会



北越谷地区 河野美保子さん

北越谷に住んで20年余りがたちます。最初に住んだ横浜のまちと比べあまりの環境の違いにとまどいさえ感じました。10年を節目に店舗・住宅が増え、まちも整備され以前の閑散とした雰囲気がなくなり、とても便利で住みやすくなりました。駅前からまっすぐ伸びるハナミズキの並木、元荒川沿いの土手には桜があり、今では越谷の名所になりました。

私たちも行政と協力し、北越谷の桜並木をはじめ、豊かな自然環境を大事に守り育て、計画に掲げる将来像の実

自然の中に
感動の時間を

6人の市民が考えるまちづくり

3世代共通のまちづくりを
増林地区 森島信夫さん

現に向けて努力していきたい
と思います。

私は科学が驚くべきスピードで進歩する時代に生きており、各世代とともに生きようとする高齢者との間に、大きなギャップが生まれております。

このようなかで、新いまちへの課題は、3世代共通のまちづくりであり、そのため今後は総合的老人福祉行政の推進や第3、第4の老人福祉センターおよび若者から高齢者までが世代を超えて利用できる多目的施設の建設を望むとともに、私たち市民も行政と一緒にとなって、アメニティに満ちた生きがいのあるまちづくりに取り組んでいきたい

国際化に向けてのまちづくり
大相模地区 山田慎一さん

われています。

一方市内でも、最近では至

るところで外国人を見受けられるようになってきており、立った人たちが戻つて来て、またまちづくりを考えてくれるようなまちになればいいですね。

現実を無視した夢を述べさせていただきましたが、今後もこのような夢を語れる市民会議も必要ではないかと感じました。

独自性を考える
荻島地区 石川弘さん

この基本計画が市民に希望を与え、環境の整った豊かな自治会活動を通してまちづくりを実践していくたいと考えています。

この基本計画が市民に希望を与え、環境の整った豊かな自治会活動を通してまちづくりが進められています。そして、そのまちの独自性を見つけ出し、長期的なまちの目的、まちの未来像長期ビジョンを策定しています。この独自性を見つけ出すことが越谷によります。巨額を投じた象徴的な建物の建設、温故知新の見地から人や歴史を掘り起こす、文化ソフト面を強化する人材育成等であります。

情報化への積極的な取り組みを
桜井地区 三富精吾さん

また、13地区で開催した懇話会では、自治会やPTA、老人クラブ、子ども会などの団体の代表者198人にも参加をいただき地区の課題や市全体のまちづくりについてご提言をいただきました。皆さんからの多くのご意見やご提言は、後期基本計画策定の貴重な資料として活用させていただきました。(ここでは、地区懇話会などに出席された6人の市民の方から計画に対する感想や抱負などをいただきましたので紹介します。

第2次越谷市総合振興計画後期基本計画策定のための地区懇話会に住民の一人として参加しました。昭和33年の市制施行時、わずか4万8000人の人口も今や28万人を数えるまでに大きく発展しています。この激しい人口増加の過程で、教育・環境・道路などの整備に追われ、行政も市

災害に強く、緑豊かな住宅地を形成するとしました。また、商店街の整備や青少年の健全育成を図るために、あいさつ運動など地域に根ざしたコミニティ活動の推進も盛り込みました。

まちづくりは、行政と市民の主体的活動が必要なことは言うまでもありません。高齢化社会の到来などいろいろな

21世紀を展望しつつ将来都市像を構築するために、越谷市が市民の声を広く隅々まで聞こうとする越谷市総合振興計画地区懇話会に、市民の人として参加しました。

市像を構築するため、越谷市が市民の声を広く隅々まで聞こうとする越谷市総合振興計画地区懇話会に、市民の人として参加しました。

このまちの子どもたちが胸を張って越谷を語り、巣立つた人たちが戻つて来て、またまちづくりを考えてくれるようなまちになればいいですね。

現実を無視した夢を述べさせていただきましたが、今後もこのような夢を語れる市民会議も必要ではないかと感じました。

このように、情報化について積極的な取り組みを期待するものです。OA機器による行政運営、インテリジエントスクールやCATVの実現等、情報のネットワーク化を図り、市民が日常生活の中で行政の情報、市の催し物

情と将来像等について多くの意見が、それぞれの立場で交換されました。

このような中で、私は近年特に注目されている情報化について、積極的な取り組みを期待するものです。OA機器による行政運営、インテリジエントスクールやCATVの実現等、情報のネットワーク化を図り、市民が日常生活の中で行政の情報、市の催し物

案内、学習の情報、公共施設利用の予約、娯楽・スポーツ情報等を享受できるようにしていきます。もちろん、その実現には民間企業の参加と支援、市民参加による理解と協力が必要不可欠であると思われます。

越谷らしい独自性を考える

今回、第2次越谷市総合振興計画後期基本計画の策定にあたり、私は増林地区懇話会に、その一員として参加し、他の分野の方々とともに、さまざまな課題に取り組んでいました。

そこで、私は高齢化社会における今後のまちづくり対応について提言いたしました。

一方市内でも、最近では至るところで外国人を見受けられるようになってきており、立った人たちが戻つて来て、またまちづくりを考えてくれるようなまちになればいいですね。

このようしたことから、今後越谷市の国際化を図るために、国際的な文化交流ができるような施設がぜひ必要と考えます。交流するうえで、ネックとなるのは言葉であり、国際となるためにはどうしても外国語は避けられません。そのためにも、その壁を乗り越え多くの外国人と接し交流できる場が不可欠となります。

国際化が進む中、越谷市が国際都市として誇れるようなまちとなることを期待するともに、私もそのお手伝いをしていきたいと思います。